

Book Review

自著に寄せて・・・米田雅子



■日本は森林国家です

／編著：米田雅子，日本プロジェクト産業協議会

このたび、「日本は森林国家です」の本を出版しました。「産業界からのアプローチ」を副題として、企業の取組みをベースに森林再生への道筋を提案する内容となっています。

日本プロジェクト産業協議会（JAPIC）森林再生事業化研究会は、製紙、住宅、建設、機械、電力、ガス、製材、鉄鋼、セメント、商社、金融など民間企業、北海道から九州までの地方経済団体連合会、学識者に加えて、オブザーバーとして、林野庁、経済産業省、国土交通省も参加して、産業界による日本初の森林再生の産官学プラットフォームとして、熱心に活動しております。林業・木材産業の方々を支援すると共に、

産業界のノウハウや技術を活かした次世代林業システムの提案と実現に向けて邁進しています。

日本は、国土の67%は森林という世界有数の森林国家です。戦後の緑化運動で植えられたスギやヒノキも大きく育っています。森林の年間生育量は、日本の年間木材使用量を超えています。しかし、日本の国産材の割合は24%にすぎず、間伐等が進まず、森林は荒れ始めています。

これからは、林業の仕組みを見直し、木を適切に伐って搬出し、国産材を使って、森林を再生することが大切です。森林再生は、地球温暖化防止、水源かん養にもつながります。

平成二十三年は国際森林年です。研究会が総力をあげて作成したこの本をご一読戴けますと幸いです。

■発行元／ぎょうせい

■B5判 235頁＝2,000円（税込）

最近、私の読んだ本・・・下田邦雄



■居眠り磐音江戸双紙シリーズ

／著：佐伯泰英

「最近私の読んだ本」ではなく、「最近私の読んでいる本」を紹介する。「読んでいる」と言う現在進行形としているのは、この時代小説のシリーズが終わっていないことから来ている。最新のものは、「第36巻 紀伊の変」である。私は、まだ「第

20巻 野分ノ灘」を読んでいるところであり、恥ずかしながら周回遅れとなっている。

今回紹介するのは以前NHK木曜時代劇「陽炎の辻～居眠り磐音江戸双紙」として放映されたもので、佐伯泰英氏の作品である。この作品に至るまでは、「吉原裏同心」、「隠居宗五郎鎌倉河岸捕物控え」などに触れていた。時代小説「居眠り磐音江戸双紙」は、端的に言えば主人公である岩崎磐音を中心としたラブストーリーであるが、演出家の西谷真一氏も語っているように、テーマは人と人との「絆」と「生きることの功罪」である。それがこの小説の真髄であろう。

私は、この主人公である豊後関前藩（架空）出身の坂崎磐音に好感を覚える。磐音は、幼馴染と江戸にある直心影流の道場で修行し、幼馴染と3人で藩政の改革を志していたが、藩の守旧派の陰謀により、自身の許嫁とその兄を討ち取ることになってしまう。磐音は、藩を離れ浪人として江戸に戻り長屋暮らしをしながら、仲間の力借り守旧派を排除し、藩を立て直しに助力する・・・。一方、剣術の達人ではあるが、剣を構えた姿が縁側で日向ぼっこをしている年寄り猫のようなところから、「居眠り磐音」と呼ばれている。しなやかに相手の剣を受け流し、根負けした相手を打ち倒すのである。それも、魅力のひとつである。

磐音という人物は、まず分をわきまえていること、欲を持たないこと、相手の立場を理解すること、そして最も肝心な武士として矜持＝プライドを心の中に持っている男として描かれている。それゆえに、今の世の中では忘れ去られがちな生き方が、私を始め読者の共感を呼ぶのではないかと思う。

■発行元／双葉社

■文庫本（野分ノ灘） 333頁＝648円＋税